２０１０年７月　第１７号

市立室蘭総合病院　広報誌

くじらんネット

病院の理念

おもいやりの心がかよう病院

病院の基本方針（平成22年６月１日より新しくなりました）

・信頼される医療を持続的に提供します。
・自治体病院としての役割と責任を担います。
・経営の健全化と効率化に努めます。

就任ご挨拶

市立室蘭総合病院　病院事業管理者　土肥修司（どひしゅうじ）

この４月から市立室蘭総合病院の事業管理者の拝命を受けました土肥です。近藤院長から頂いた資料（「百年のあゆみ」、「百二十年記念誌」）によって、当院が「地域住民の健康と生命を守る」ことを使命として、それぞれの時代の要請に応じて移転・統合し、機能充実を図ってきたこと、市民の信頼と地域の応援をいただきながら、人々の生命を守り、疾患を治療し、健康の増進に貢献し、そして医療従事者自らも多くを学びながら、発展を続けていることを学びました。ここで働けることを大変な光栄と感じています。

日本の医療は様々な問題をかかえ、地域医療を守り抜くことが経営的に容易でなく、総合病院の独自の努力だけでは、標準的な医療の提供が持続できない状態にあります。地域の中核となる医療機関が地域の枠を超えて連携し、市民や医療従事者はもとより、行政、医師会、医療関連機関、そして地域の医療に関わる人々が力を合わせる必要があります。優れた医療従事者を育て、優れた医療システムを構築し、その上で市民とともに正確な情報を共有し、周辺医療機関との連携によって、初めて満足度の高い地域医療を継続できると考えています。

当病院の主要な役割は、急性期病院として患者一人ひとりに満足できる医療を提供することです。そのためには「確かな医学・医療知識」、「高い医療技術」、「豊富な経験と高い倫理観」、「優れた情報統括・事務能力」が必須、それらの根底に「思いやりの心がかよう医療」がなくてはなりません。私たち職員は、常にそれらの向上をめざして研鑽と努力とを続ける必要があります。

市民の健康な生活を支援し、安心して治療・療養できる医療環境を提供して、地域の理解と信頼とを得、市民も私どもも誇ることができ、活力のある病院であり続けられるように、近藤病院長や全職員とともに一丸となって努力いたします。全職員の皆様のご理解、ご協力、ご努力をお願い申し上げます。

院　長
近藤　哲夫

副院長
東海林黎吉

副院長
東海林哲郎

医局長
澁谷　均

副医局長
朝倉　光司

診療科の紹介

消化器内科より

胃・腸疾患、肝・胆・膵疾患、更に血液疾患などを担当しています。日本消化器病、消化器内視鏡学会の認定施設に指定され、それぞれの専門医を中心に診療にあたっています。充実した内視鏡機器を備え、内視鏡技師を中心とした内視鏡室専属スタッフのサポートにより、最新の内視鏡検査・治療を行っています。肝炎、肝癌などの肝臓疾患は肝臓学会専門医を中心に診療を行う体制が整っています。また外科的な治療が必要と判断される場合は、術前検査を行って外科とのカンファレンスを行い、手術を行った症例については臨床検査科（病理医）を交えて検討するなどの連携を図っています。血液悪性腫瘍に対しては無菌治療室を利用し、自家末梢血幹細胞移植治療にも取り組んでいます。

院　長
近藤　哲夫

主任副部長
金戸　宏行

副部長
清水　晴夫

科　長
佐藤　修司

医　長
中垣　卓

医　長
久保　俊之

医　長
内藤　崇史

医　長
川上賢太郎

医　員
一色　裕之

循環器内科より

（1）a）急性心筋梗塞、狭心症、不整脈、心臓弁膜症などの心臓病、b）またこれら心臓病の原因になる動脈硬化をもたらす高血圧、脂質異常症（コレステロール、中性脂肪）、上記疾患に伴う糖尿病、肥満などの生活習慣病（最近注目のメタボリックシンドローム）、c）さらに高血圧や糖尿病が長く続いた結果生じることが多い慢性腎臓病（腎不全）を中心に、突然発症する急性疾患の治療から、日常生活で気をつけるべき食事や運動治療など生活習慣の改善指導まで幅広く扱っています。

（2）突然発症する心筋梗塞（胸が重苦しく締めつけられ、冷や汗も出る感じ）に対しては24時間いつでも速やかに心臓カテーテル治療ができる体制を整えています。腎不全（尿毒症）に対しては血液透析（人工腎臓）、腹膜透析を行っています。

（3）受診にあたっての注意

急性心筋梗塞など急性心臓疾患では、発作発症の早期1時間以内に急激に状態が悪化する頻度が高いことが知られています。突然の発作時には119番通報し、救急車での受診を躊躇しない事が大切です。

一方、狭心症や不整脈では発作から回復すると心電図も正常にもどってしまいます。その際には発作がいつ、何をしている時、身体のどこに、どういう症状がおこり、何分位続いたかなどを他人にわかるように話せる事が大切です。

副院長
東海林哲郎

部　長
宮崎　義則

副部長
福岡　将匡

科　長
西里　仁男

医　長
佐藤　孝宏

医　長
前田　卓人

医　長
大堀　克彦

糖尿病内科より

Ｐ７『シリーズ　健康講座・糖尿病内科の新設』をお読み下さい。

部　長
宮崎　義則

呼吸器内科より

肺炎、間質性肺炎（肺線維症）、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（肺気腫）、じん肺、呼吸不全、肺腫瘍、肺癌、肺結核などの病気の診断・治療を担当しています。健康診断などで胸部Ｘ線写真に異常を発見された方の精査も行っています。なるべく短期間で苦痛の少ない検査によって治療方針を決定するよう努力しています。入院はベッドの都合で待っていただく期間が長期化しており申し訳ありません。検査や治療は可能な限り外来で進めてまいります。

主任医長
澤田　格

医　長
小林　智史

医　員
吉川　匠

整形外科より

本年度は５人体制で診療に当たっています。専門領域は脊柱・肩関節・膝関節・足の外科に加えてスポーツ専門の診療も加わりました。もちろんその他の股関節・肘関節・手の外科もカバー、外傷一般・リウマチにも対応しています。鏡視下の手術に関しても肩・肘・手・（股）・膝・足の各関節の手術を行っています。昨年同様に、札幌医大からの腫瘍・股関節・肩関節の専門外来も引き続き診療を行っています。また、毎月第３火曜日にコンサドーレ札幌のチームドクターである中野先生による、スポーツ専門外来も引き続き診療を行っています。

外科より

食道から肛門までの消化器全般と甲状腺、乳腺を扱っています。外科学会、消化器外科学会、大腸肛門病学会の指定施設、乳癌学会の関連施設になっています。消化器疾患では、腹腔鏡下の手術を積極的に取り入れ、胃全摘術、直腸切断術も鏡視下で可能となっています。また乳癌ではできる限り乳房を温存する手術を行っています。腋窩リンパ節転移の有無を知るため小型ガンマ線検出装置を用い、無駄に腋窩リンパ節郭清をしない工夫をしています。この術式は術後の浮腫や腋窩の違和感を防ぐことができ、患者さんにとって有用な術式です。また、最近のトピックスとして痔核に対し、ジオン注射療法を行っています。この方法はジオンと呼ばれる注射液を痔核に注射することで痔核を硬化（かためる）させる方法で手術と違い術後の痛みは殆どありません。一泊入院で帰れますので患者さんにとっては非常に有益です。是非ご相談下さい。

医局長
澁谷　均

副部長
佐々木賢一

科　長
久木田和磨

医　長
植木　知身

医　長
河野　剛

心臓血管外科より

心臓、大血管、末梢血管などの循環器系の病気を診断し治療していますが、胸部の外科として肺などの呼吸器系の病気の治療も幅広く行っています。

部　長
木村　希望

部　長
石川　一郎

科　長
石井　圭史

医　長
亀田　和利

医　長
神谷　智昭

医　長
道家　孝幸

脳神経外科より

脳神経外科では、脳卒中診療（脳梗塞超急性期治療であるt-PA静注療法に24時間体制で対応）をはじめ、交通事故・不慮の事故などによる頭部外傷や脊髄損傷、さらには脊髄・脊髄疾患（頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア・頚椎後縦靱帯骨化症・腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・腰椎すべり症、脊髄脊椎腫瘍など）の診断治療、その他の末梢神経の外科に積極的に取り組んでいます。

MRI（磁気共鳴断層装置）、CT（コンピューター断層撮影装置）、DSA（血管X線撮影装置）など、最新の医療機器により脳、脊髄の診断を行い、特に脳卒中の予防に力を入れています。近年、治療可能な認知症といわれる特発性正常圧水頭症に対しても、積極的に鑑別診断、治療を行っています。

「手足のしびれや痛み」はよく感じる症状ですが、その原因として、脳疾患、脊椎脊髄疾患や末梢神経疾患があります。すなわち、神経系全体にわたる原因が考えられます。このため脳神経外科では、神経系全体（脳から手足の先端まで）を診察、検査してその原因を診断、治療する目的で『脳神経外科－しびれ・痛み外来』を設けました。手足のしびれ、痛みでお悩みの方は、一度脳神経外科を受診されることをおすすめします。

主任副部長 大山 浩史（おおやま ひろし）　副部長 小浜 郁秀（こはま いくひで）　医長 鵜飼 亮（うかい りょう）

産婦人科より

現在産婦人科では婦人科の外来診療のみを行っています。

子宮筋腫や卵巣のう腫などの通院治療・経過観察、子宮がん検診、妊娠の判断、月経不順や更年期障害の治療、性感染症など、一般的な外来診療は従来通りに行っています。生理の異常、おりものの異常、不正出血、下腹部痛などの症状がなくても婦人科の病気がかくれていることがあります。子宮頚がんはがん検診を受けていただくことで早期発見・早期治療できる病気です。初期のがんであれば子宮を温存し妊娠出産することも可能です。20歳以上の方は特に症状がなくても２年に１回は子宮がん検診を受診されることをお勧めします。

分娩を希望される妊婦さんや入院・手術が必要な患者さんについては日鋼記念病院や新日鉄病院等と提携しておりますので、責任を持ってご紹介させていただきます。

診療日は木の午前中です。前日までに電話などでご予約ください。

科長 荻野 元子（おぎの もとこ）

小児科より

赤ちゃんから思春期までの心と体のすべての疾患に対応しています。特に小児アレルギー疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）、てんかんの検査・加療には力を注いでいます。また、小児循環器疾患については隔週で専門医が対応にあたっています。予防接種は毎週木曜日の午後に行っています。

副院長 東海林黎吉（しょうじ れいきち）　科長 大柳 尚彦（おおやなぎ なおひこ）　医長 川村健太郎（かわむら けんたろう）

眼科より

白内障や緑内障、網膜硝子体疾患をはじめとする眼科疾患全般について診療しています。平成22年度より常勤医が増員となり２人体制となりました。また、札幌医科大学付属病院との迅速な診療連携を行っており眼科専門外来の医師（教授、準教授）による網膜硝子体、緑内障、神経眼科領域疾患の専門特殊外来も設けております。

科長 伊藤 洋樹（いとう ひろき）　医長 菅原 敦史（すがわら あつし）

形成外科より

熱傷、顔面外傷、皮膚腫瘍、陥入爪、腋臭症、悪性腫瘍切除後の皮膚欠損や変形、褥瘡や難治性潰瘍など、形成外科領域全般を扱っています。また、レーザー治療も行っており、異所性蒙古斑、扁平母斑、太田母斑、外傷性刺青、血管腫などの赤あざなどは保険診療で、老人性色素斑などのしみ、刺青に対しては保険外診療で行っています。さらに月に一度、札幌医科大学の四ッ柳高敏教授による専門外来を設けており、唇裂、口蓋裂、小耳症などの体表先天異常を中心に診察、治療を行っています。

また、最近は眼瞼下垂症に対する手術も増加し、力を入れて行っています。

主任医長 石崎 力久（いしざき よしひさ）　医員 山田 哲生（やまだ てつお）

泌尿器科より

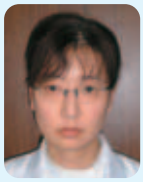
腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、尿道炎、性感染症、腎・尿管・膀胱の結石、腎・尿管・膀胱・前立腺・精巣の癌、前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿失禁、男性不妊症、勃起不全などの疾患を主に扱っています。尿が出づらい、尿がもれる、尿をする時に痛みがある、尿が近いなどの症状がありましたら受診してください。

部長 宮尾 則臣（みやお のりおみ）　副部長 加藤 隆一（かとう りゅういち）

耳鼻いんこう科より

すべての耳鼻いんこう科疾患の診断と治療に対応しており、特に朝倉部長は再建を含めた頭頸部外科のスペシャリストで、アレルギー学会指導医です。本間副部長は聴覚前庭領域、病巣性扁桃炎に関する幅広い知識と経験を有しています。

副医局長
朝倉　光司


副部長
本間　朝

医　長
長屋　朋典

精神科より

精神科・神経科は、入院病床数180床、外来は午前中3診体制で、統合失調症やうつ病、不安障害などの精神疾患全般に対する診療を行っています。特に総合病院の精神科・神経科として、精神科救急医療や身体合併症をもつ精神疾患患者さんの治療に積極的に取り組んでいます。また一方で、臨床心理士・作業療法士・精神保健福祉士などのコメディカルの充実を図り、デイケア・作業療法・訪問看護などの精神科リハビリテーションを積極的に展開し、患者さんの社会復帰の促進にも力を入れています。

科　長
高田　秀樹

医　長
三上　敦大

医　長
三戸　法和

医　員
三宅麻里衣

医　員
上川　康友

放射線科より

放射線治療はＣＴで正確な位置決めを行い、断層画像ごとに線量計算します。放射線治療装置はＸ線が２つ、電子線が５つの計７種類の放射線を出すことができます。病巣の深さに対して最適な放射線を選ぶことで副作用の少ない治療ができます。画像診断は放射線科専門医がＣＴ、ＭＲＩ、核医学と幅広く行っています。

部　長
志藤　光男

副部長
吉田　悟

麻酔科より

「安全な麻酔」をモットーに年間2,000例以上の麻酔管理を手術室で行っています。また集中治療室（ICU）や救急診察室では、重症患者さんの治療に積極的に参加しています。

部　長
下舘　勇樹

副部長
西川　幸喜

医　長
土屋　滋雄

リハビリテーション科より

リハビリテーションは、理学療法士（ＰＴ）・作業療法士（ＯＴ）・言語聴覚士（ＳＴ）の3職種により機能しており、患者さんにリハビリテーションサービスを提供しています。

ＰＴは起きる・座る・歩くなどの基本動作訓練を主に行います。ＯＴは食事動作・更衣動作・トイレ動作など、日常生活動作訓練を主に行います。ＳＴは摂食・嚥下訓練や失語症などの患者さんに対して訓練を行います。

私たちＰＴ・ＯＴ・ＳＴは医師・看護師・ソーシャルワーカーなどの他職種とも連携を図り、患者さんの状態に合わせてチームを組み、より良いサービスを提供していきます。

部　長
石川　一郎

臨床検査科より

血液・尿・喀痰・体腔液・組織などを検査する検体検査部門と、心電図・脳波・超音波検査などを行う生体検査部門があります。

緊急検査、診療前検査、時間外緊急検査にも対応し、人間ドックや検診、そしてメタボリックシンドロームなどの診断も支えます。

病理専門医が常勤し、病理組織診断や手術中迅速病理診断、更には細胞学的診断にも対応しています。又、当科には臨床検査技師、臨床工学技士、視能訓練士が所属し、チーム医療を担っております。

部　長
今　信一郎

科　長
小西　康宏

シリーズ 健康講座

第17回

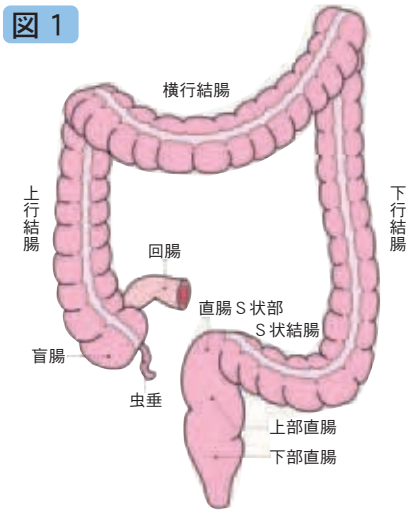
《外　　科》

大腸癌（その３）
「大腸の解剖学的事項」

医局長（外科部長）　澁谷（しぶや）　均（ひとし）

大腸は小腸の終わりの部分（回腸）から肛門まで続く約1.5mの腸管です。
大腸は（図１）の如く名称がつけられています。一般によく言われる盲腸炎とは盲腸の末端部にある虫垂が炎症を起こしたことを指します。虫垂に便がはまりこんだりして虫垂炎が発症します。盲腸のさらに上は上行結腸、さらに横行結腸、下行結腸、Ｓ状結腸、直腸に分けられます。直腸は直腸Ｓ状部、上部、下部直腸に分けられます。大腸を輪切りにしてその断面を見ると、その内面は胃と同様の構造を示します。内側から粘膜、粘膜筋板、粘膜下層、筋層、漿膜下層、漿膜の層構造になっています（図２）。

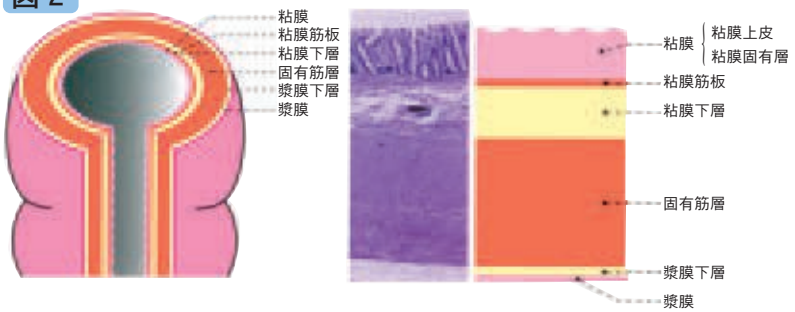
図１



ホルモンを皆さんはよく焼き肉屋で食べると思いますが、ホルモンは粘膜面を綺麗に洗い落としたものであり、我々は筋層から漿膜を食べていることになります。また、癌の浸潤が粘膜下層までのものを早期癌と言います。それ以上浸潤したものは進行癌です。

大腸の働きは皆さんご存じのように水分を吸収することです。また塩分なども吸収します。便の性状ですが、横行結腸までは便はまだある程度水様性ですが、それより肛門側では水分が吸収されて固まってきます。ですから右側結腸（盲腸、上行結腸など）に癌ができても便は水様性ですので症状が出ずらく、大きな腫瘍になって初めて通過障害で発見されることが多いです。それに対して、Ｓ状結腸、直腸などでは便が固まっていますので腫瘍があまり大きくなくても、通過障害を起こしたり、出血などで癌が発見されやすいと言えます。便秘傾向がでてきたり、便に血が混じったりした時は痔が悪いことが多いのですが、癌の可能性もあり早めの受診が必要です。

図２



《 糖尿病内科（その１）》

糖尿病内科の新設

糖尿病内科部長　宮崎義則（みやざき よしのり）

当院で新たに糖尿病内科が専門科として開設されました。私は札医大卒後９年間、循環器疾患を中心に診療を行っておりましたが、その後の５年間テキサス大学サンアントニオ校の糖尿病臨床研究施設（DeFronzo教授）に留学し、帰国後は札医大第二内科で糖尿病専門外来に携わり、１型および２型糖尿病、高校生以上の若年者の糖尿病、妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠、二次性糖尿病（内分泌疾患）などの診療を行ってまいりました。

昨年7月当院循環器科に赴任し、本年４月より循環器科と糖尿病内科を兼務しております。糖尿病は単に血糖が高いだけの疾患ではありません。高血糖に併発する網膜症、腎症、神経症などの細小血管症ならびに脳梗塞、狭心症・心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症などの大血管症が大きな問題であり、これら血管合併症の発症および進展の予防が非常に重要です。その為に、生活習慣の改善に加え、患者さん個々の病態及び生活スタイルを配慮した適切な経口薬・インスリンを使用した早期からの適切な治療介入を心がけております。また、眼科の先生をはじめ、他科の専門の先生方のご協力を得ながら合併症の進展予防・治療に努めております。さらには糖尿病療養指導士や療養指導士を目指しているコメディカルの皆さんのご協力を得ながら患者さんに質の高いサービスを提供できたらと思っております。

《 眼　　科 》

加齢黄斑変性について（その1）

眼科科長　伊藤洋樹（いとうひろき）

眼をカメラにたとえるとフィルムの役割を果たしているのが網膜となりますが、その網膜の中心となる部分が黄斑と呼ばれます。黄斑は視力に最も関わりが深く、色を識別する細胞のほとんどはこの部分にあります。

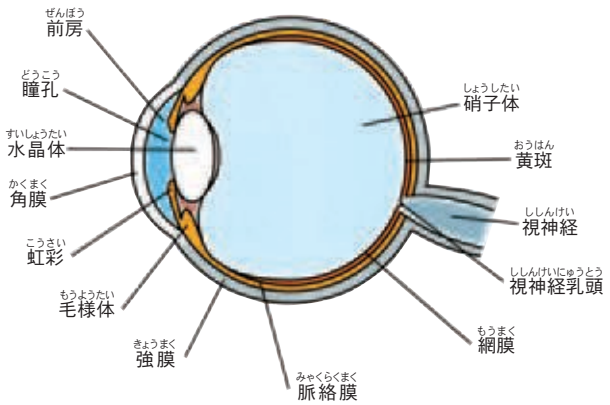
加齢黄斑変性は、この黄斑の加齢に伴う変化によっておこる疾患で、高齢者の失明原因のひとつです。網膜に栄養を送っている脈絡膜という組織から網膜内に伸びてきてしまう病的な血管（脈絡膜新生血管）が発生し、これは正常な血管ではないため血液の成分が漏れやすく、破れると出血をおこしてしまいます。

高齢者に多く発症することから、黄斑の加齢による老化現象が主な原因と考えられていますが、高血圧や心臓病、喫煙、栄養状態、遺伝などの関与も報告されています。しかし病因や病態については完全には解明されておらず、現在もなお様々な研究がなされています。

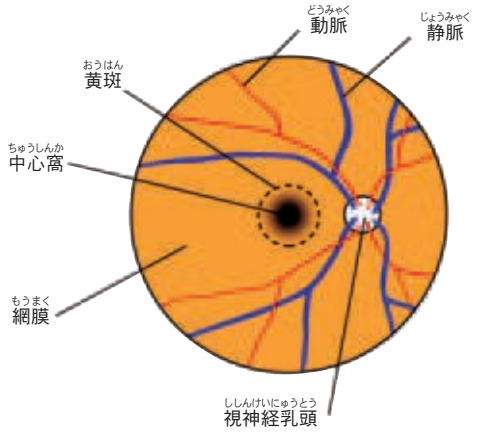
加齢黄斑変性は先進国において失明の主原因となっており、近年の急激な高齢者人口の増加に伴い増加の一途をたどっています。アメリカでは現在、本疾患が中途失明をきたす疾患のトップとなっています。わが国の研究では、５０歳以上の０.８％に加齢黄斑変性が発症することが示され、欧米諸国の発症率の報告とほぼ同様の数値を示していることもわかりました。さらに日本人では男性の発症率が女性の３倍と、男性に発症しやすいことも示されています。

治療や経過については次回でご説明させていただきます。

■眼球の断面図



■眼底の正面図



医療安全管理室を開設しました

当院では、従来から医事課医療相談係で行っておりました、医療安全に関する業務をメインとした「医療安全管理室」を４月１日から開設し、専任の医療安全管理者を据えて、医療の質と安全の向上を目指すことといたしました。

医療は患者さんと医療従事者の協働によって成り立つものです。医療安全管理室では、医療の安全を確保するために患者さんの協力と情報をもとに、事故防止活動に取り組んでまいります。なお、各種ご意見やご要望は１階ロビーに設置しております「みなさんの声」にて承っております。

医療安全管理室

室　　長：東海林黎吉（副院長）
副　室　長：川橋　一公（医事課長）
医療安全対策監：矢野　健治
医療安全管理者：奥山　昭子

地域連携室からのお知らせ

４月１日より医療相談係と地域医療連携室が、地域連携室としてリニューアルいたしました。

これまでどおりご紹介の患者さんについては、地域連携担当が責任を持って受診や検査の調整をいたします。その他セカンドオピニオンの相談もお受けいたしますので、まずはお電話などでご相談下さい。

また、病気になったり怪我を負ったりするとさまざまな不安や心配事が起こりますが、ソーシャルワーカーが安心して治療を受けられるように一緒に考え、お力になれるよう相談をお受けいたします。

地域連携室

室　　長：東海林黎吉（副院長）
副　室　長：川橋　一公（医事課長）
医療相談係長：池田　和晃
地域連携担当：新井　　一・前田　陽子・河本　健一
ソーシャルワーカー：藤部麻衣子・田中　洋亘・山﨑　美里・上伊澤　友里
後藤　和葉・伊藤　真吾・吉田奈緒子・佐久間　史好
電話番号：地域連携直通電話　0143-25-1121　地域連携直通FAX　0143-25-2209
医療相談直通電話　0143-25-2241・2249
受付日時：月～金（祝祭日は除く）8:50～17:20

市立室蘭総合病院

リハビリテーション科

私たちの仕事場

リハビリテーション科は、

患者さんの症状や障害に応じて医師・看護師など他職種と連携を図り、身体機能・日常生活動作・仕事・遊び・コミュニケーション等、家庭や社会への再適応を促していくサービスを提供しています。

精神科では、

作業療法士２名と助手１名が勤務しており、入院作業療法やデイケア（外来）訪問看護等に関わっています。
統合失調症やうつ病など、精神疾患を患った患者さんが、様々な作業活動を介し安心して日常生活を送れるよう支援します。

患者さんは、

ほぼ全科にわたりますが、主に急性期の整形外科・脳外科が多数を占め、入院・外来を含め毎日 200 名程度が治療を受けています。また、週 1～ 2 回、医師・看護師・ソーシャルワーカーを含め情報交換の場を設けています。

リハビリテーション科

今年の４月から新たに７名の新人が増えました。
現在、理学療法士 13 名、作業療法士７名、言語聴覚士３名、助手２名の計 25 名でリハビリ業務に励んでおります。

様々な疾病により身体・精神機能に障害を有してしまった患者さんにとって、リハビリテーションは決して楽なものではありません。

私達は、

厳しい中にも楽しく笑顔であふれるようなリハビリテーションサービスを提供できるよう、日々努力を続けていきます。

《看 護 師 募 集 中》

当院では、正職員を随時募集しています。
お気軽にお問合せください。

※正職員以外の短時間勤務職員も募集していますので、ご相談ください。

【お問い合わせはこちらまで】
市立室蘭総合病院看護局
TEL（0143）25−3111　内線2300

市立室蘭総合病院　広報委員会

〒051-8512
室蘭市山手町３丁目８番１号
事務局総務課
TEL（0143）25-3111 FAX（0143）22-6867
http://www.city.muroran.lg.jp/main/org8400/